



平和祈念展示資料館

〜東京旅・美術館巡り④〜

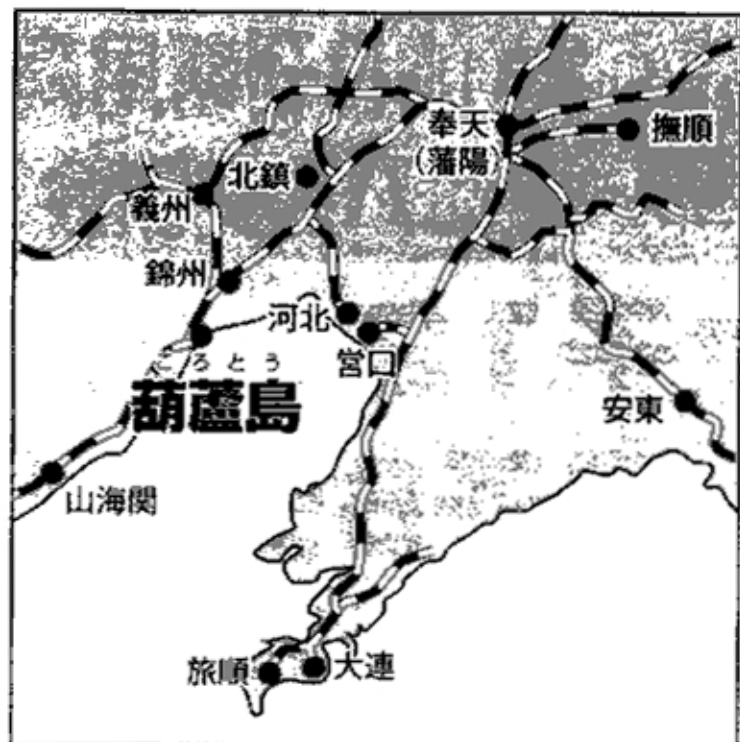
東京の「平和祈念」いう。自分のルーツを

展示資料館を訪れ、少しでも知りたい、今たのは、これまでの美回りの東京旅の目的の術館・博物館めぐりとつであった。

六歳の時、引き揚げ

私は昭和十五年に、当時をほとん旧満州の奉天で生ま、ど覚えていない。小学れ、終戦翌年の昭和二三年の時、押し入れの一年に引き揚げた。中に大きなリュックを

それを知っている友見付けた。母は「引人から「ぜひ、東京の平和祈念展示資料館が背負ったもの」と」に行ったら」と勧めう。三年生の時でも余られる。そこには海外りに大きいリュックとから引き揚げ者の記思った。引き揚げの際、録が展示されていると大人も子供もリュック



満州(現・中国北東部)の一部

一つだけ持ち帰ることが許されたらしい。

私が持っている引き揚げの記録は、母が国に提出した「引揚者の外地における居住状況・引揚の状況

に関する申立書」の写しだけである。終戦直前のソ連軍の満州進攻に伴い、満州からの引き揚げは混乱と困難をきわめたという。

母が残した写しによると、終戦を満州の戦山で迎え、翌昭和二十一年七月に錦州に集結。そこで約二十日間、八月中旬、貨物船で葫蘆島(ころが嵐で約一週間船底で過ご

し、八月二十六日に博多に帰国したとある。平和祈念資料館は、都庁前の新宿住友ビルに四十八階にあった。「兵士」強制抑留者」の「引揚者」の

長門市仙崎にも約41万人が引き揚げた



ナリ、図書閲覧コーナー、ビデオシアターなどがあつた。約半日間ここで過ごしたが、来場者は私のほかにも数人だけ。戦争体験が風化していることを実感する。先日、「手づくりのリュック」や「飯盒(はん)

成人式があつたが、この中の何人が、終戦まで二十歳以上の男性に徴兵制があつたことを知っているだろうか。展示会場から持ち帰った資料を詳しく見て、引き揚げ者などの数字が余りに膨大だったことに驚く。

引き揚げ者は約六百三十万人。軍人、軍属を除く私のような民間人は約三百二十万人。この中でも旧満州からの引き揚げ者は約百二十万人と断トツに多い。これは国策としての、民間人の満州国への移住が行われたからだろう。

引き揚げは昭和二十一年四月から始まること、その歴史を忘れてはならない。今の日本の繁栄の影に、この現実があつたこと、その歴史を忘れてはならない。